



幼児虐待の深 層心理秘密



—実は育てられる
親が存在しない—

斉藤・w・ルビンスキー

団塊世代から見たよい子とは？

なんでも言うことを聞いて、自分を犠牲にし親の奴隷になれる子

即ち、自分を犠牲にできる心が強い子ほどよい子
親として成功した人として、崇められた。

世代交代をした結果、幼児虐待ブームとなった。
その秘密を順番に紐解き、深層心理で解く。

言うことを聞けない子は将来悪人

親の考えをなんでもかんでも押しつけようとして
言うこと聞かないと悪人（ISIS加入等）になるとされ
罰がエスカレートするのは当時は常識であった。

子供の人権は親のもの

家庭としての勝ち、家主に服従する事。

実は、子供を人としてではなく物として見る事が常識となっていた。

社会的地位の高い親は、子の名義を勝手に使ったり

自分の思うように権力をフルという思考が多い。

ただ、基本的には道具なので大事な所は一切協力しない

という文化でもあった。

また、従属教育対象への尊重は存在しない事が明らかになっており

人格全否定も「子供教育の常識」となっている。

問題系家系の最後は

「あー、道具がしんじまった」

程度にしか思わない家庭が多いのである。

モラルハラスメント教育こそ最高の教育

口すっぱく言うのが最高の教育

子供の考えをすべて否定するのが最高の教育

そういうのが昭和全盛期の公式教育

子供ではない、物なのだ。

その考えで育った子が親となり

幼児虐待ブームへと発展した

負荷はすべて従属対象へ

いろいろなものを買う時に、セットアップがわからない場合
どういう行動を取るのだろう

従属対象が少しでも知識あれば、そいつにやらせればよいので
購入して道具おいといてやってもらえばいいのだ

基本的には何も聞かず、何かあったら電話で呼び出すのが常識手法だ
よって、設定の日からしばらくは何もできない時間がほとんどになるのだが
もともと、従属対象は所有物なので、尊重はしてはいけない

どんどん負担を与える結果になるのだ。

言葉の暴力の完全正当性

子供は親の言うことをなんでも聞くのが本当のよい子
道具のようなものだ。

言葉には言い方がある

優しい言い方

きつい言い方

昔のは、人が傷つく暴力的な言葉が勝ち組になる

いや、親になるにあたって、もっとも効率的がよく

最強の教育とされていた。

そういう傾向から、その言葉に傷ついてトラウマになろうが

自殺してしまおうが、効率のよい「言葉の暴力」は最高なのである

なぜかその時の正義で全部、言葉の暴力で訂正すればいいからである

基本的に

これだけいったら、死を選択するだろうというのも
完全把握したうえで、親の絶対正義をかざします

なので、今の時代

自殺も人間の正しい選択なのです。

で、後、家庭状況説明しても「甘えてるだけだ」という人は
基本的に、話信じてませんので、後で死んだとわかったとしても
友人クラスでも、悲しく事は絶対にありません。

親も基本的に、自分の物（道具）とみているので、深層心理的に
愛情は存在しません。

勝手に利用できる、名義専用なので、自由に売買に使うでしょう。

自分が子供を育てる時

親は鬼畜に教育しているので

その環境で育った子は、自分の子にも鬼畜に育てた結果
幼児虐待ブームが発生したわけである。

子離れできない親？いえ違います

特徴としてあげられる中で興味があるのが下記項目

子どもの可愛がり方が異常

子どもを自分の所有物と思っている

自分と子どもが別の人格であるという認識が皆無

ずっと自分の手元に置いて、将来を共にしようとしている。

子どもの行動を逐一知りたがる。

子どもの人生をコントロールしたがる。

自分が望む人生のみを子どもに要求する。

というわけで、こういう内容があげられてるのですが

実はこれ、道具や人形としか見ていないので可愛がり方が異常なのは当たり前です。

なので、離れられるのは親が生まれた時からの人生を全否定されるという深層心理があります。

そもそも、人として見ていないのでここまで高圧的なのは当たり前なのです。

勝ち家庭の教育条件とは？

- 条件付きの愛情にて教育をする
- 子供の意見を一切聞かず、親の予定のみで強行する
- 弱き者を力で滅するを公言とし、徹底的に抑制する
- 親といるときは楽しい顔をしなければいけないという感情の強要
- モラルハラスメントやハラスメント系を公認手法とし、子供を物とする

なので、虐待系も子供教育の一環という流れになるのは当然であり、変える事ができない常識でもある。

親の理想と違う姿にせかした結果

人間には突然連絡が取れなくなる事がある

従属対象の子は道具である。人扱いではない
なので、名義が余ってれば自由に使う

やはりこの家庭の事情で住所がめちゃくちゃだったり
で相手が不信に思い、採用却下するケースもある
親としてはどの職業にでもつけてのが本音であるので
このギャップは埋められない

仮に超遠方に仕事が見つかり、その後連絡が取れなくケース
がある。

電話番号などを変えたりして教えないケースである
さて、親は心配するのだろうか

アンケートデータである

心配する 0%

心配しない 100%

長期間連絡等ができない場合、死亡宣告で
本来配布予定した他子息に移動できるので
人の話を聞かずに要求をどんどんせかす事は
正当行為であり、勝ち組家庭になる為の重要要素
である

従属対象者の末路

従属教育対象は親のおもちゃです
やりたいこととかは全部来世に持ち込みましょう

今世は100%不可能と考えるのが
よい子の条件です

補足

magmagmag氏の

seesaaからblogspotに切り替わった時に
撤退した、某時期のブログに捧げます。

幼児虐待の深層心理秘密

<http://p.booklog.jp/book/45317>

著者：斉藤・w・ルビンスキー

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/saitouwrubinsuki/profile>

深層心理データ提供：magemag氏

<http://www.domain-kingdom.com/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/45317>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/45317>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.